

□■ジェトロ海外調査部セミナー■□

「アジアで進化する生産ネットワークと新たな潮流」レポート

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスの神谷です。

4月24日、日本貿易振興機構（ジェトロ）主催のセミナー「アジアで進化する生産ネットワークと新たな潮流」に参加しました。2018年1-3月のASEAN各国とインドでの企業へのヒアリング調査をベースに、各国の生産現場の課題と対策について発表されていました。

<調査のもともとの問題意識>

・日本企業の進出と共にアジアに生産ネットワークが発展しているものの、このネットワークは恒久的なものではなく様々な要因で変化していく。

・生産ネットワークに影響を及ぼす要因

-上昇する賃金

-進む地域統合（インフラなどのハード面や関税の撤廃などのソフト面）

-変化する受け入れ国の政策

・これらに進出している日系企業は何を考え、どのように対策しようとしているのか

セミナーではインドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア、ベトナム、インドの6カ国について講演がありましたが、今回のオフィス便りではお問い合わせをよく頂くタイ・インドネシア・ベトナムについてご報告します。

<タイ>

しばらくの間停滞気味と報じられてきたタイの経済ですが、昨年からの回復の兆しが見え、2018年度は3.6-4.6%の経済成長が見込まれています。輸出と観光業が国内経済を牽引すると共に公共投資の拡大（例：「東部経済回廊関連（EEC）インフラ開発」と民間投資の増加がそれを後押ししています。（※EECについてはオフィス便り2017年7月号をご参照ください。

http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/enterprise/shien/kaigai/report.data/bizsup_report35_H2907.pdf)

タイにおける主要産業は自動車などの輸送機械の生産ですが、タイ国内だけで完結するのではなく、部品の生産/相互供給はASEAN域内で活発になっています。ASEAN全体での取引量は2000年~2016年の間で13倍にも増えています。タイ→マレーシアではハンドルやステアリング部品が主な輸出品目ですがその量は14倍に、またタイ同様自動車の一大生産拠点として発展したインドネシアとの間ではギアボックスを輸入し、その他の部品をタイから輸出していますが、およそ20倍の取引量になっています。

自動車部品に限らず、最近訪問するタイ国内の日系中小企業様からよく「ベトナムから引き合いがあった」「タイからマレーシアに輸出している」「HPを見てインドから問い合わせがあった」など ASEAN のほかの国との取引が活発になっている声を聞きます。タイ国内だけでは小さなマーケットと感じるかもしれませんが、インフラの整備、関税の撤廃、更には TTP が進んでいけば、ASEAN 諸国どこに行くにも飛行機で 1-3 時間、十分な市場を得る可能性があります。

また、タイ政府は Thailand4.0 という政策の中で 10 の重点産業（次世代自動車、スマートエレクトロニクス、メディカル&ウェルネスツーリズム、農業・バイオテクノロジー、食品関連、メディカルハブ、航空、バイオ燃料、バイオ科学、デジタル、ロボット）への投資拡大を図り、産業を高度化するという方針を打ち出しています。実際私がタイの工業省や大学を訪問してもタイ側からは「EV と航空」について何か一緒にできないか？という声を多く聞きました。

ジェットロは最後にタイにおける今後の潮流としてさらに 2 つのことを指摘しています。

1. 日系企業は高付加価値品の生産、地域統括機能の強化、自動化・省人化（ロボットの導入）を通じた、生産・サービスの高度化を視野に入れる
2. 労働集約的な生産プロセスは、ミャンマー、ラオス、カンボジアなど周辺国へ。ただしこの場合物流や人材確保などの課題から生産コストが割高になる可能性がある。

タイに進出している 日系企業数(業種別)		
業種別	合計	
	構成比 (%)	
建設業	158	3.3
製造業	2,454	51.3
卸売業	1,172	24.5
小売業	168	3.5
運輸・通信業	191	4.0
サービス業	466	9.7
不動産業	71	1.5
その他	108	2.3
合計	4,788	100.0

<インドネシア>

毎年 5-6 %の経済成長が続くインドネシアは、人口、国土、名目 GDP で ASEAN10 カ国の内約 4 割を占めています。日本企業の進出は「自動車産業」を中心に、近年は内需を狙った「一般消費財」「食品・飲料」「サービス産業」の他「電力」「鉄鋼」「不動産」が目立ちます。

生産ネットワークはタイと同様 ASEAN 域内の生産ネットワークが進んでいます。もともと 1 国・1 市場・1 工場で各国で分断された生産体制が、2003 年からの域内関税 0-5%への削減、2010 年からの一部域内関税撤廃、そして 2018 年には域内関税全て撤廃を受けて、効率的な生産・調達体制の再構築が進んでいます。

インドネシアに進出している 日系企業数(業種別)		
業種別	合計	
	構成比 (%)	
建設業	75	3.7
製造業	1,019	50.5
卸売業	476	23.6
小売業	55	2.7
運輸・通信業	87	4.3
サービス業	221	10.9
不動産業	22	1.1
その他	66	3.3
合計	2,021	100.0

しかし、大手自動車メーカーが進出し生産台数もタイに次ぐ 2 位となり、ASEAN 域内での国内販売台数も Top となったものの、裾野産業の育成ができておらず、タイに比較するとサプライチェーンが脆弱です 3 次・4 次請け企業はタイの半分にも満たない企業数です。ヒアリング

した企業からは現地部品調達率の向上が課題だという声があったそうです。またそのためにも地場企業や地元産業人材に対する着実な技術移転も必要なものの、インドネシアの場合は設定されている外資最低資本金が高く（1億円）タイのように日系の中小企業が進出する上でのハードルになっています。

加えてインフラ整備も大きな課題です。政府はインフラ整備に2015-2019年の5年間で約51兆円が必要と試算しています。うち4割を国家予算、6割を民間企業から調達予定です。高速道路、空港、港湾などの開発発展が産業高度化への鍵を握ります。

<ベトナム>

ベトナムの人口は2017年に9368万人でしたが、5年後2022年に1億人を突破する見込みです。日本と同じ高齢化問題を抱えるタイは人口6676万人。一方ベトナムは平均年齢30.4歳（2015年）と、労働力としても、成長する購買力という観点でも魅力的です。

ベトナムで生産されている主な品目は携帯電話と部品、印刷機械と部品があります。携帯電話に関しては、ベトナム・中国・韓国・インドネシアの間で部品の輸出入が行われ、最終製品は中東やアメリカに輸出されます。印刷機械は日本・中国などから輸入し、最終製品はオランダ、中国アメリカなどに輸出されます。

タイ・インドネシアに比べると自動車産業は小さいものの自動車部品の輸出は増加傾向です。しかしかつては一部部材を日本から調達していた部品メーカーもインドネシア・タイからの調達に切り替えるなどが進んでいます。

業種別	合計	
	企業数	構成比(%)
建設業	109	4.3
製造業	1,061	42.0
卸売業	614	24.3
小売業	61	2.4
運輸・通信業	105	4.2
サービス業	470	18.6
不動産業	33	1.3
その他	74	2.9
合計	2,527	100.0

<まとめ>

セミナーに参加して改めて感じたことは、日本にいたときには見えなかった生産ネットワークとマーケットがASEANで広く深く進んでいることに対するある種の恐怖です。自動車産業が取り上げられることが多かったのですが、自動車産業に限らずこの輪の中に入っていけなかったとしたらどんな未来が5-10年の中で待っているのだろうか。それと同時に日本から部品を高コストで送って現地で組み立てるよりも、ローカルの企業を育て共にモノづくりをしたほうが付加価値の高い製品を生み出す可能性もあるとも感じました。

必ずしも製造拠点をつくること、日本と同じビジネスモデルを持ち込むことがグローバル化のあるべき姿だとも思っていないませんが、変化に備えて接点を持ち続けることは重要だと思います。例えばある従業員数10名の金属加工の会社はベトナムでモノづくりではなく、ローカル企業と日本のお客様をつなぐ商社的な動き方をして成功しています。またある地方の小規模な

2018年4月

ハウジングメーカーは数年かけて ASEAN を見て回り、タイに市場を決めて、それから日本でタイ人の方を雇い、技術を教え、まずはリフォームからタイでサービスを開始しました。小さく始める中から最終製品である家造りへの道筋を見つけられるのだと思います。

言葉の問題はもちろん壁になることもありますが、言葉よりも製品や設計図、確かな技術のほうが雄弁にコミュニケーションできるツールになると思います。また、通訳の方を社員として雇用しても例えばタイでの相場は新卒で月給 20,000-30,000 バーツ、日本円に換算しておよそ 70,000-100,000 円（日本語レベル N2、勤務地による）です。言葉だけが問題であれば、解決する方法はあるのです。

皆さんにも是非機会を見つけて ASEAN に足を運んでいただけたら幸いです。次の記事ではタイでパートナー探しをするときにご紹介できるサブコン協会についてご紹介します。

□■タイサブコン協会インタビュー■□

-まず始めに、タイサブコン協会について教えてください。

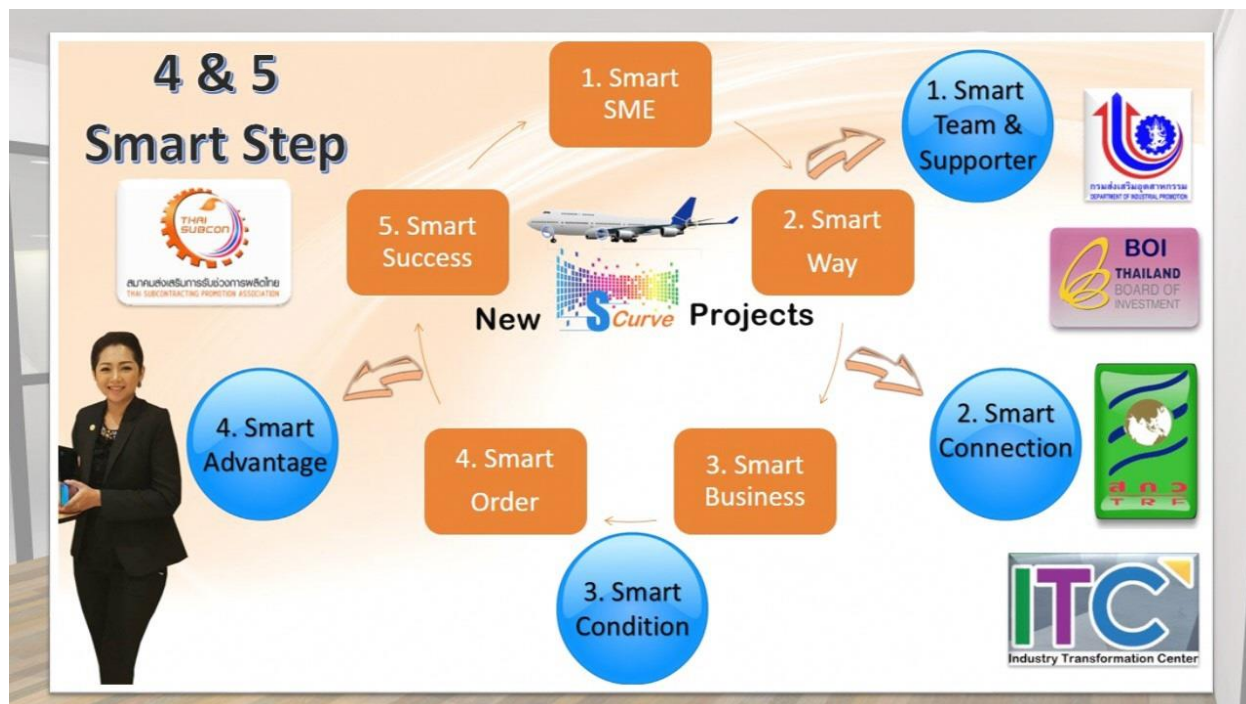
当協会では協力関係の構築、利益を生み出す新規ビジネスのサポートに力をいれています。技術を持つ企業が当協会のコネクションを通じて、ジョイントベンチャーを設立、または資本提携を行い、その技術を必要とする企業に提供されています。このようなサポートは、新規ビジネスを生み出すのに役立っていると思います。また政府に新規事業への特権付与などの支援をするよう働きかけています。これこそ当協会の目的です。近年、多国籍企業が意図的に低税率国に多くの課税所得を移転することで、他国の税源が失われる問題(いわゆる BEPS)が取りざたされており、OECD 主導のもと BEPS プロジェクトの主要項目の 1 つとして移転価格文書作成の制度化が整備され、タイ国を含め様々な国で導入が議論されています。

近年、景気が良くないため、もしコネクションが無ければビジネスは難しいでしょう。でもジョイントベンチャーになれば、タイ側のコネクションを利用でき優位になれます。我々は「What are you looking for?」まずあなたは何を探しているのかと質問をし、「We can find for you」必要としているものを見つけ、「We go with you」共に歩むという一つの経営理念を持っていますが、日本企業もタイ中小企業を技術面や共同出資というかたちで支援して欲しいと願っています。これこそ、WIN-WIN コラボレートです。製品の製造依頼を行うだけといったサポート形態の時代は終わったと思います。それゆえ、当協会では(企業間やタイ政府との)コーディネートや情報提供を行う Team Smart Lady を発足させました。



-Team Smart Lady について更に詳細を教えてください。

タイでは男性が話しあうとシリアスになりすぎる傾向があるため、ソフトなサポートを目指してチーム SmartLady を立ち上げました。例えば、当協会の会員になることを検討している企業があれば、チーム Smart Lady が連絡を取ります。そして重要な点ですが、4&5ステップシステムつまり4つのサポートで5つの成功が導けるよう一連の仕事をサポートします。



-タイサブコン協会の会員企業の強みを教えてください。

当協会の会員企業は自動車部品の製造に優れています。しかし、将来、電気自動車に変わってしまうことが考えられるため、あらたな市場を開拓する必要がありますが、自動車部品を製造している企業は多数にのびります。重要な点として、将来の市場の変化にも対応できるよう、医療機器や航空機部品の製造ができるよう製造水準を上げていく必要があります。

もう一つの強みは、政府の公企業部門や様々なクライアントとのコネクションです。また別の点として、低価格で新商品をデザインするための技術を持っています。また当協会は他協会や BOI とのコーディネートが可能です。彼らは全製造企業を把握しているので企業を紹介することができます。政府の公企業部門ですが、BOI の他に工業省があります。地方の工業省は各県の工場や製造業について把握していますので、共同出資を検討している企業へ役立つ情報を提供できるでしょう。

-タイだけでなく、海外拠点を持つ会員企業はありますか。

大半の企業はタイに工場を持っており、事業規模はまだ大きくありません。サブコンは部品を受け取り製造する請負事業です。大半は海外に拠点が無く、企業独自の製品もありません。しかしながら我々会員企業は海外企業、とりわけ日本企業とのビジネスに関心があります。もし我々が低コストで製造可能な地域で製品の製造及び販売も行い、その後、全世界規模でそれらの製品販売が可能となれば何よりです。そのためにも我々は協力しあう必要があります。

-（タイでの事業参加を考えている）日本企業が取り分け関心のある技術や製品はありますか。

（サブコン協会）関心があり助けになれる分野は工場用器具です。ただ工場用器具といっても多岐にわたります。当協会は様々な工場を知っており、各工場によって必要な器具は異なります。ある種の器具はタイで製造することができません。今後、タイサブコンはタイでまだ製造できない製品を取り扱い、それらの製品紹介といった主要な役割を担う可能性があります。

-タイサブコン協会の会員企業で日本企業とジョイントベンチャーになったり、共同事業を行っている企業は多いでしょうか。

ありますが、さほど多くはありません。多くは、日本企業がタイに工場を建設し、部品製造を発注するというケースです。しかし、将来、日本企業と共同で事業を行いたいと考えています。医療器具や航空機部品製造に優れている企業があれば、是非、タイでの事業に参加頂きたいです。今後、タイはアジア航空路線のハブ空港となり、航空機メンテナンスのため航空機離着陸数も最多となるでしょう。また、タイには外国人が訪れる病院も多いです。しかし、医療器具設備の製造をしているタイ企業はほとんどありません。

-日本では高齢者のための介護保険制度があり、介護用品購入をサポートしています。そのため日本では高齢者用製品を製造する企業がたくさんありますが、タイ企業で当事業への出資に関心がある企業はありますか。

関心ある企業を探すことは可能ですが、まず、どこでニーズがあるか情報収集を行い、広告や当事業について周知できればと思います。（関心ある企業が）当協会の会員になれば、企業同士の話し合いが可能となり連帯することができます。タイサブコンの会員で医療機器に関する事業を行っている企業は少ないですが、高齢者用製品及びその需要がどこにあるかわかれば、当事業とコネクションがある企業を見つけることは可能です。しかし、現在、受託製造のみの企業から変っていくため、市場にコネクションを持っている会社を探しています。タイに市場がある商品があれば、外国会社として販売するよりタイ企業とジョイントベンチャーしたほうが特別な商権が与えられます。このような動き方は成功する可能性が高いといえます。もし製品価格が高いようであれば、客層の選択が必要です。現在、購買力がある富裕者層とそうでないグループに市場は分かれています。購買力がある人々に製品を販売できれば利益は大きくなるでしょう。

2018年4月

-タイサブコン協会から島根県の日本企業にメッセージやPRがありましたら教えてください。

私どもはタイ企業とジョイントベンチャーを目指す企業に対し、いつでも協力しサービスを提供できます。生産分野や市場においてタイには無い製品を求めています。もしそのような製品を持つ日本企業があれば、是非、ジョイントベンチャー設立をご検討頂ければと思います。企業交流会に参加した際、高度な医療機器に関する技術をもつ企業と出会いました。タイ企業が社内で医療機器開発する代わりに、技術を持つ日経企業に製造してもらうこともできます。またはジョイントベンチャーとなることもできます。

☆☆タイから便り☆☆

～タイの大ヒットドラマ「ブPPERサンニワート」～

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスのタイ人スタッフ、ビューです。
今回はタイの大ヒットドラマを紹介したいと思います。アユタヤ時代の歴史の話と主人公(主演女優さん)がアユタヤ時代にタイムスリップしてしまう話でラブコメディです。「ブPPERサンニワート」というドラマのタイトルの意味は元々この言葉がパーリ語由来の言葉で、前世において一緒にいた、夫婦であったという意味です。また、運命的な出会い、運命の人という意味でも使われています。アユタヤ王朝時代の話なので、会話に古い言葉を使用し、衣装もアユタヤ時代のものを着ます。



photo: ch3thailand.com/แกลเลอรี่ของ3/drama/7935/บุพเพสันนิวาส

ドラマのあらすじは現在の歴史学科のぽっちゃり女子大学生のゲー・スラン(Bellaさん)が交通事故にあっ、約300年前のタイのアユタヤ時代(1682年、日本で言うと前期の江戸時代)にタイムスリップしてしまいます。性格が悪い美人ガー・ラ・ゲートとして目覚めた彼女は、周りの人から嫌われます。特に嫌っていたのは官僚美男の婚約者ムーン・スントン・テーワー(Popeさん)です。しかし、善良な性格に変わり、皆さんと仲が良くなり、愛されることとなります。女子大学生だった現代で学んだタイの歴史を実際に自分の目で見たり、アユタヤ時代の人たちに21世紀の知識や言葉など少しずつ教えたりしていく話です。

最近ではテレビはインターネットでも視聴できるようになって、テレビを見ることよりスマートフォンでYouTubeを楽しみ、Facebookでまわってきた動画を見るが多いため、タイのドラマの視聴率が低下しました。ただ、このドラマがプライムタイムに放送される番組の中で視聴率が一番高く、最終回の視聴率はバンコク市内が23.4、タイ国内が18.6になりました。3月7日にツイッターのトレンドワード(twitter trends world)という世界のTwitterのタイムライン上でも使用頻度が高く、短時間で急上昇した話題性の高いワードとして国内と海外でも1番ランキング上位で、165万回リツイートされました。

タイのドラマ「ブPPERサンニワート」を見た日本人からは、主人公が現在から昔にタイムスリップしたというストーリーが似ているドラマ「JIN-仁-」を思い出すと聞きます。ドラマは、楽しく観ることができて、歴史を知ることができます。そして、ドラマに出てくる歴史的な人物については、描かれていた人柄や役者さんのイメージがあるので自然と覚えることができ、ますますその時代に興味がわきます。



ドラマのファンたちがタイの伝統衣装を着て写真撮影



現タイ国王主催のイベント「AoonIRak」にてタイの伝統衣装にチャレンジした人たち

ドラマの影響で、アユタヤの観光地が大人気となって、ドラマのファンたちがタイの伝統衣装を着用し、写真を撮影しに行きます。特に、撮影場所となったアユタヤにある寺「ワット・チャイワタナラーム」はドラマ放映前に訪れる人は平日1日600-900人、週末3,000人でしたが、3月には平日1日5,000-6,000人、週末25,000人に増えました。旅行者が多いため、4月までお寺の拝観時間が18時30分から21時に延長されました。国民的ブームになっている歴史ドラマや、アユタヤ時代の衣装を着て、アユタヤに行くのが流行っていることなどの影響で今年のソンクラーン祭は政府が「タイの伝統衣装を着て水を掛け合う」と発表し、奨励しました。そのため、ソンクラーンの時に伝統衣装を着て参加する人が多く見られました。

ドラマの情報

- タイトル : 『บุพเพสันนิวาส(Bupphasaniwas)』
- 放送局 : チャンネル 3
- ジャンル : ラブコメディ、歴史物ロマンス
- 主演 : Pope さん、Bella さん
- 放送期間 : 2/21-4/11, 2018(15話)
- 放送時間 : 毎週水・木、20:20～
- 国内の平均視聴率: 13.4%
- 国内の最高視聴率: 18.6%(最終話)

【展示会情報】

※別紙に、年内に開催予定のタイ・インドネシア・ベトナムの展示会情報をまとめました。
サポートオフィスでは、現地で開催される展示会へのアテンドも行っております。
関心のある展示会がございましたら、お気軽にご連絡ください。

～新担当のご挨拶～

2018年4月より島根・ビジネスサポート・オフィスの専属担当者となりました神谷靖子と申します。佐藤の後任として皆様からの様々なお問い合わせに今後対応をさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

担当；神谷 靖子 Yasuko Kamiya

Address :1 Glas Haus Building, 12 FL., Room 1202/D, Soi Sukhumvit 25,
Sukhumvit Rd., Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110

Tel :+66-(0)-2-261-10588

Mobile :+66-(0)-89-200-7763

Mail : shimane-bizsup@aapth.com

▶ タイ経済指標

項目	単位	2015	2016	2017	2018
GDP 成長率	前年比ベ(%)	2.8	3.2	3.9	3.9(17年)
人口*	千人	67,293	67,506	67,697	67,726(2月)
労働者の数*	千人	39,165	37,792	37,716	38,111(3月)
失業率**	%	0.89	0.99	1.18	1.23(3月)
最低賃金* バンコク	バーツ/日	300	300	310	325(4月)
チョンブリー		300	300	308	330(4月)
アユタヤー		300	300	308	320(4月)
ラヨーン		300	300	308	330(4月)
賃金:全国製造業の平均	バーツ	12,305	12,402	12,473	12,679(3月)
インフレ率**	前年比ベ(%)	▲0.90	0.19	0.67	0.63(3月)
中央銀行政策金利*	%	1.50	1.50	1.50	1.50(4月)
普通貯金率**	%	0.56	0.47	0.47	0.47(3月)
ローン金利(MLR)**	%	6.75	6.47	6.35	6.32(3月)
SET 指数*	1975年:100	1,288.0	1,542.9	1,753.71	1,780.11(4月)
バーツ/100円**	バーツ	28.31	32.53	30.27	29.12(4月)
バーツ/米ドル**	バーツ	34.25	35.30	33.9	31.5(4月)
円/米ドル**	円	121.0	108.8	112.2	108.(4月)
車販売台数(1月からの累計)	台数	795,905	765,593	869,763	240,159(3月)
BOI 認可プロジェクト	件数	2,237	1,688	1,227	1,227(17年)
BOI 認可プロジェクト金額	10億バーツ	809.4	861.3	625.08	625.08(17年)

*期末、**平均